

(株)タカハタインターナショナル

バングラデシュに現地法人を設立してから3年
いい品物を安く提供するために本格始動！



●「お客様を驚かせたい、喜んでもらいたい」

(株)タカハタインターナショナルの設立は一九九九年であるが、前身となる高畑商店は昭和八年に米屋として設立し、昭和二十七年には繊維卸売業として開業した。その後、昭和六十一年には(有)エポックを設立し、蕎麦屋や居酒屋などをオープンしている。

タカハタグループが香港・台湾との貿易を経て、最初に中国に進出し、事務所と検品工場を

設立したたのは一九九五年。一九九〇年のバブル崩壊以降、あらゆる分野での低価格競争が始まった時代である。その四年後に「お客様を驚かせたい、喜んでもらいたい」を経営の目標として、タカハタインターナショナルを設立した。量販店やデイスカウント店への



高畑社長とイスラム氏
中国以外の海外拠点を探していた高畑社長がバングラデシュのダッカに現地法人「Ceell Limited (セルリミテッド)」を設立したのは二〇一一年五月。

●なぜバングラデシュを選んだか

卸と並行して企業の販促ギフトの販売を開始した。同社の販促商品は「圧倒的な安さとおもしろさ」で薄利多売路線を走り続け、プラス成長を保持しているのである。もう一つ、成長を支えたのは検品率の高さである。ボールペンであれば、すべて日本向けのインク軸と入れ替え、一〇〇%検品を徹底している。「いくら安くても、商品が悪ければ弊社は潰れています」(笑)と高畑泰久社長。



▲2013年9月、東京国際ギフト・ショー同社のブースはいつも賑やか

理由は、第一に商品の品質の高さである。もともとヨーロッパへ皮革や繊維製品を輸出してきた関係で、特に皮革とアパレルが優れているという。第二に、人件費が極めて安いこと、人口が多い(約一億六〇〇〇万人)こと。第三に、国内に貿易港があること。セルリミテッドの設立には、ダッカ出身のイスラム(Dr.ABM RAFIQUOL ISLAM)氏が大きく貢献した。イスラム氏は、セルリミテッドの役員を務めつつ、東京大学のヒューマンエコロジ学部客員教授としても活躍している。タカハタインターナショナルは、海外拠点の移行を皮革と繊維の製品から始めて、徐々に他の分野でも行っていく予定である。

(株)タカハタインターナショナル
電話／〇四九四(二三)二二二一